



鶏 鳴

2010年11月14日(第41号)

イエスの言葉

『本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない』

聖書(ヨハネ福音書9章3節)

牧師 河合裕志

生まれつき目の見えない人がいた。何と気の毒、何と不幸なこと。この美しい自然界を見ることができない。自由自在に動きまわることができない。両親はこの子を不憫と思いつつ一生懸命養い育てた。世間の冷たい視線を感じながら。そして今は大人になり、通りに座り物乞いをして日毎の糧を得ていた。

そんな彼をイエスは通りすがりに見かける。この時弟子達が一つの間をイエスに提出。『ラビ(先生)、この人が生まれつき目が見えないのは、だれが罪を犯したからですか。本人ですか。それとも、両親ですか』。

何と通俗的な、あまりに通俗的な問いかけ。弟子達よ、お前もか。このような大きな不幸、それは罪に対する罰だと受けとめた。本人が前世で何か悪いことをしたためではないか。そうでなければ両親の悪事のせいだろう。こう人々は見なしていた。弟子達もついうっかりこの見方に立った。

日本でもこんな見方する人いるね。それは因果応報というものですよ。親の因果が子に報いということですよ。誠に古今東西、罰だ、罪業の結果だ、天罰が当たったのだと言って不幸な目にあっている人を更に苦しめて来た。そしてこの信仰に入りなさい、

この宗教に入ること罰の連鎖から解放されるよと勧誘する。高価な物を買わせたりする。これってユスリじゃない？

イエスは何と答えた。それが冒頭の言葉。イエスは明確に本人と両親の罪のせいではないことを言明。実に胸のすく言葉。私達もここに立とうよ。本人の罪捜し、両親の罪捜しを止めよう。むしろ同情して、いくらでもその人の支えとなることを心がけたいもの。

ところでイエスはこの言葉に続けて言った。『神の業(わざ)がこの人に現れるためである』。この人の不幸、そこには何か積極的な意味があるよ。それは神の業が現れるためだよ。神の業って何？ このあとを見るとこの人はイエスによって目を開けてもらい、更に心の目まで開かれてイエスを神のもとから来た救い主とわかり信じる。

神の業ってこれなんでしょう。不幸が転機となってイエスとの出会いに導かれる。そして永遠の命を与えられる。私達もいつ痛い目に会うかも知れない。これを罪の罰と考えることよりもイエスとの出会いに導くものとして受けとったらどうだろう。イエスに出会わせ命を与える、これが神の業。不幸の積極的な意味。

集案案内

主日礼拝	: 毎日曜日午前10時15分
主日夕拝	: 毎日曜日午後6時
子どもの教会	: 毎日曜日午前9時
中高青年会	: 毎日曜日礼拝後
おしゃべり会	: 毎木曜日午前10時
聖書を学ぶ集い	: 第4水曜日午前10時